

令和6年度 浦庄小学校 学校経営方針

1 校訓 「興道」 近藤克弘元校長(H29~R1)から

※休まず 心をこめ 力をあわせて やりとげよう

旧校訓 : 正しく強く 力をみがき せおってたとう 世と国を

校歌3番: 新しい国の光よ→進もう道を興して



2 教育目標

「校訓『興道』のもと、人間性豊かでたくましく生きる力をもった児童を育成する」

～「聴く・話す・学び合う」ことで『深い学び』を実現する～

3 めざす浦庄イメージ

【めざす学校像】

- 笑顔やあいさつがあふれる学校
- 家庭・地域から信頼される学校
- 共に伸びる学校
- 美しく安全で安心できる学校

【めざす児童像】

○友達とともに伸びる子

・自分も友達も大切に思い、集団生活の中で伸びていく子を育てる。そのために「ありがとう」と言い合える人間関係を育てる。

○健康で明るく元気な子

・前向きに、過信でなく自信をもち、元気にあいさつできる子どもを育てる。PBSの観点に立ち、子どもに一日一度は声かけを行う。(賞賛の声を)

・各学級で「1分間ボランティアタイム(朝の会等:各自で考え行動)」に取り組む。(褒めやすい)

○自分に必要なことに気づき、こつこつとがんばる子

・自分が今した方がよいことに気づかせ、取り組ませ、伸ばしていく。

○自ら考え表現する子

・資質・能力を身に付け、学びを活用する子どもを育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、課題を解決するために必要な思考力・表現力をつけていく。

【めざす教職員像】

○一人一人の人権を大切に、個々のよさを伸ばそうとする教職員

・「(子ども先生とも)共に伸びる学校」にしたい。そのためにはまず先生方が健康で元気でいること。そして子ども一人一人の良さを引き出す。

○児童・保護者・地域・同僚の意見に耳を傾け真摯な対応をする教職員

・ハラスメントのない安心して働ける職場を目指す。「ありがとう」「すみません」と言い合える、子どもたちのモデルとなる集団、職員室に。保護者の願いは、地域の願い。耳を傾け真摯な対応をする。

○ICT機器を活用し、わかりやすい授業を模索する教職員

・教材研究をしっかりと。ギガスクールにも立ち向かう。わからないことは、一人で悩まず、尋ねあう。
・めあて、ゴール、ねらい等の提示 による視覚化(目的意識の向上)を行う。

4 経営方針

(1) 児童一人一人の個性・特性の伸長を図る活動の充実

- ①一人一人の児童が、自分の子ども(家族)と思って対応を
- ②児童と向き合い、楽しく、わかる授業の実践を(ICT機器の活用推進)
- ③心の教育の積極的な推進(人権教育、道徳教育、特別支援教育の充実)

(2) 情報を共有し、創意工夫して組織で対応

- ①報告、連絡、相談(ほう・れん・そう)を徹底し、組織内で情報を共有する。
- ②風通しのよい職場環境づくり(児童や教職員の話題があふれる職員室)
- ③個人で悩みを抱え込まない。(言いにくいこと、悪い情報こそ速やかに報告を)
- ④厳しい状況の時こそ、プラス思考で。(アイデア・意見の尊重・みんなの気付きを結集)

(3) 信頼される学校づくりの推進

- ①児童が安全・安心に生活できる学校づくり
- ②家庭や地域との連携(不登校、いじめ、虐待等の未然防止。通告義務:児福法第25条)
- ③「教職員の誇りと自覚」を高める取組(職場をあげて不祥事防止!!)
- ④働き方改革の推進(効果的な教育活動を持続的に行うことができるように)
 - ・教職員の健康があつてこそ。早めの休養、メンタルヘルスの保持増進。
 - ・子どもの教育のための働き方改革で。柔軟な優先順位決めによる仕事への取り組みを。

5 本年度の重点目標

(1) 学びのかけ橋プロジェクト(幼・小・中の学び連携)を継続し、確かな学力の向上を図る。

「主体的で対話的な深い学び」とは「自分が今必要なことに気づき、少しずつこつこつとがんばる」こと

主体的な学び＝「生徒・児童自身が学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること」

対話的学び＝「他者と協働し学び合いをすることによって、自身の考えを広げ深めること」

深い学び＝「生徒・児童の物の見方・考え方を促進させて、理解力や思考力をあげること」

(2) 「浦庄スタイル」をすべての学年の子どもに定着させる

～学年に応じた「聴き方・話し方・話し合い方」ができる～

(3) 校内研修を充実させ、授業改善の取組を進める

～教材研究をしっかりとした授業を行い(公開も含む)、指導技術を高める～

(4) ICT機器を活用し「わかる授業」を展開する

～子どもの興味・関心を高めて効果的な学習を行う～

(5) 元気にあいさつを交わし、学校生活をスタートさせる

～誰もが大きな声であいさつができるようにする～

(6) 運動に親しませ、一人一人の体力の向上に努める

～外遊びの奨励と水泳や陸上の指導で子どもの運動能力を伸ばす～

(7) 思いやりの心もち、自他を大切にできる気持ちを育てる(ボランティア精神を育てる)

～「ありがとう」と言える機会を増やし、自尊感情を高め、自他を大切にできるようにする～

(8) 基本的な生活習慣を身に付け、健康的な生活ができるようにする

～保護者と連携し、各家庭でも望ましい生活習慣を身に付けられるようにする～

本年度の重点項目

～ 期待して登校、満足して下校 ～

教職員：子どもが学校に行きたくなる理由(一因)になってください

保護者：子どもが家庭に帰りたくなる理由(一因)になってください

誰もが参加し、話し合い、助け合う、風通しのよい集団を(チーム浦庄)

〇〇教育、〇〇プロジェクト、〇〇計画 …… 大人も子どもも大いそがし

生成AIの進歩、シンギュラリティの到来 …… 先行き不透明な時代

でも、お先真っ暗ではありません。こんな時代だからこそ

『向き不向きより前向き!!』

『まずはやってみよう!!』

経験豊かな者から浅い者への知識・技能の継承(伝えよう、学ぼう)

6 働き方改革の推進

1か月あたりの平均時間外在校等時間 45時間(県教委目標値)

ノー残業デーを各自設ける。

※『世間はそう見てない』『仕事はあるけど今日は帰ろう!!』

R5 時間外勤務状況

浦庄小

| | 45h以下 | 45h~80h | 80h超 |
|----|-------|---------|------|
| 4月 | 8 | 6 | 0 |
| 5月 | 9 | 6 | 0 |
| 6月 | 7 | 8 | 0 |
| 7月 | 4 | 11 | 0 |
| 8月 | 15 | 0 | 0 |
| 9月 | 8 | 7 | 0 |

| | 45h以下 | 45h~80h | 80h超 |
|-----|-------|---------|------|
| 10月 | 8 | 7 | 0 |
| 11月 | 11 | 4 | 0 |
| 12月 | 11 | 4 | 0 |
| 1月 | 11 | 4 | 0 |
| 2月 | 10 | 5 | 0 |
| 3月 | 10 | 5 | 0 |
| 平均 | 9.3 | 5.6 | 0 |

◎提案事項

勤務時間(現在) 8:15~17:00(12:15~13:15の60分間昼休み)

提案1 8:15~16:45(12:15~13:00の45分間昼休み)

長期休業中と同じ勤務時間(学校の日課表は同じ)

メリット : 仕事や出張が早く追われれば早く退勤できる

デメリット: 退勤時刻が変わらなければ、時間外勤務時間が多くなる

提案2(R7) 8:15~16:45 → 8:00~16:30

実際の勤務状況を見て判断し提案します

今年1年間よろしくお願ひします。